

## 水戸 水戸警察署が 交通安全への 取り組みを強化

茨城県の交通事故死亡者が6月中旬、例年に比べ50日以上も早く100人に達し、全国ワースト1位となった。中でも水戸市は、県庁所在地でもあり学校なども多くあることから、県内事故件数の15%を占めるなど発生率が高く、様々な改善への取り組みが進められている。



その一環として水戸警察署はこのほど、「セイフティプロジェクト水戸」を立ち上げ、水戸地区交通安全協会と共に、大串町の常澄庁舎入口交差点など3カ所に「パト看板」=写真=と呼ばれる安全運転を呼び掛ける看板を設置した。夜間になると、太陽電池による赤色回転灯が点灯し、パトカーが警戒中のように見え、注意を喚起する仕組み。「マナー向上に向けて総合的な対策が必要だと思っています。今回の設置は、緊張感を持って運転をして欲しいという願いからです」との同署員。

同署では更に、高齢者を事故から守るために、寿小、長岡第2小学校区を高齢者事故防止重点地域に指定し、反射材の配布など自己防衛のための啓発活動を展開している。